

(別紙様式1)

令和6年度学校評価実施計画

| | |
|-----|--------------|
| 学校名 | 大分豊府中学校・高等学校 |
|-----|--------------|

| | | |
|------------|---|---|
| 前年度評価結果の概要 | 【大分豊府中学校】 1 授業改善、ICT機器の活用による主体的・探究的な学習姿勢の育成 2 教科外の活動領域におけるシテズンシップの育成 3 ワークライフバランスの推進による業務の精選、効率化・平準化 | タブレット端末の効果的な活用が一層進み、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した取り組みが日常的に行われた。次年度は、中高連携をさらに深め、生徒の主体性を育成するための取り組みを研究する必要がある。多くの生徒が安心して学校生活を送っており、不安や悩みを抱える生徒に対して寄り添う指導を丁寧に行えた。次年度も生徒が主体的に活動する生徒会を中心にして、人間関係作りやリーダーシップがとれる人材育成を行う。外部人材活用により業務の精選が進み、在校等時間の意識も高まったが、休暇取得日数は目標に届かなかった。次年度は、今年度の取組の継続して行事・業務の精選を進め、休暇取得のしやすい職場体制づくりを推進する。 |
| | 【大分豊府高校】 1 授業改善、ICT機器の活用による主体的・探究的な学習姿勢の育成 2 教科外の活動領域におけるシテズンシップの育成 3 ワークライフバランスの推進による業務の精選、効率化・平準化 | ICTの活用、授業改善の取組、総合的な探究の時間の新たな取組等、体系的な教育が確立されている。今後は中高一貫校の特色をさらに活かすため、中高教員間での研修、連携を強化していくことが課題であるため、中高合同会議を行うなど、意識統一を推進していく。生徒が安心して学校生活を送り、積極的に活動へ参加しており、満足度は高評価である。全生徒が生徒会活動に参加している意識を高める取組、中高合同の行事の企画が課題である。中高合同を意識した行事等の企画をさらに推進していく。教職員の働き方改革の意識は年々向上し、年休取得率も上がっている。引き続き、管理職だけでなく同僚間の声掛けやOJTによる業務改善に努めるとともに、職員間の風通しの良さを推進し、働きやすい職場環境を作り上げていく。 |

| 学校教育目標 | 中期目標 | 重点目標 |
|--|---|--|
| 創造的な知性と豊かな人間性、逞しさを備え、高い志を持って国際社会でリーダーとして活躍できる人材の育成 | <p>1 中高一貫校の特色を活かし、中学・高校の全教職員が協働して、6年間・3年間で生徒を育成する教育を推進する (1)生涯に渡り学び続ける学習意欲の醸成に基づく学力を育成する指導の推進 (中高一貫した教科指導、思考力・判断力・表現力を育成する授業実践、生徒が主体的に学ぶシステム構築) (2)コミュニケーション力の育成を基盤とした人間力を育成する指導の推進 (生徒の自己・他者理解を深め、広い視野を有し何事にも誠実に取り組む実践力を育成する特別活動や人権教育等) (3)生きる力を育む進路指導システムの体系化を進めるとともに、進学力を向上させる組織的対応システムの推進 (中高一貫した進路指導体制、系・コース選択指導の充実) (4)安心して学べる環境づくり、信頼される学校づくりの推進</p> <p>2 中高一貫校の特色を活かして中学校・高校の全教職員が協働して、正確、迅速、効率的に業務を遂行できる学校経営体制を確立する (中高協働した業務システム構築、統合FS・OENシステムの活用)</p> | <p>1 生徒の主体性の向上</p> <p>2 中高連携の強化</p> <p>3 ワークライフバランスの推進</p> |

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー

| 重点目標 | 達成(成果)指標 | 重点的取組 | 取組指標 | PL SL |
|-----------------|---|-----------------------|---|--|
| 1 生徒の主体性の向上 | <p>A 生徒アンケートにおける回答率 ※次の質問に対する「4」の回答が70%以上(中高) 1「授業において主体的に考え積極的に参加した」 2「課題に対して積極的に取り組み学力が身についた」 3「総学」(中)・「総探」(高)の時間に積極的に取り組み、主体的に学ぶ姿勢が身についた」 4「学校行事や生徒会活動」に主体的・積極的に取り組んだ」 5「学校生活におけるルールを理解し進んで守ることができた」</p> <p>B 職員アンケートにおける回答率 ※次の質問に対する「4」の回答が90%以上(中高) 1「主体的・探究的な学習姿勢を育成するために、ICT機器を活用している」 2「生徒の主体性を向上させる取組や働きかけを行った」</p> | (1)学習活動における生徒の主体性の向上 | <p>①ICTを活用した主体的・対話的な授業の実践と充実(中高) ②課題の個別最適化による授業外学習の実践と充実(中高) ③体系的でアウトプットスキルも伸ばす「総学」(中)・「総探」(高) ④希望制による上位者指導の実施と充実(中高)</p> | PL:指導教諭 SL:教科主任 ※③④はSLに進路指導主任・学年主任を含む |
| | | (2)学校生活における生徒の主体性の向上 | <p>⑤中1・2における規範意識と中3での主体的判断力の醸成(中) ⑥生徒心得の理解の浸透と見直しを通じた、生徒の主体的・良識的判断力の醸成(高) ⑦ノーチャイムの環境での時間管理能力の向上(中高)</p> | PL:生徒指導主任 SL:特別活動主任・学年主任 ※⑦はSLに教務主任を含む |
| | | (3)教科外活動における生徒の主体性の向上 | <p>⑧中高別「豊饗祭・体育の部」での生徒の主体性の発揮(中高) ⑨生徒心得の理解の浸透と見直しを通じた、生徒の主体的・良識的判断力の醸成(高) ⑩生徒主導での特活行事の実施(中高) ※生徒会活動・部活動も含む</p> | PL:特別活動主任 SL:学年主任 ※⑨はSLに生徒指導主任を含む |
| 2 中高連携の強化 | <p>C 生徒アンケートにおける回答率 ※次の質問に対する「4」の回答が70%以上(中高) 1「高校生サポーター、中高パネルディスカッションに満足している」(中のみ) 2「豊饗祭(文化の部・体育の部)に満足している」 3「中学と高校の交流に満足している」</p> <p>D 職員アンケートにおける回答率 ※次の質問に対する「4」の回答が70%以上 1「学校全体として、中高連携が昨年度より強化された」(中高) 2「個人として、高校に対する理解を深める取組をし、理解が深まった」(中) 3「個人として、中学に対する理解を深める取組をし、理解が深まった」(高)</p> | (4)進路指導における中高連携の強化 | <p>⑪高校生サポーター、高校の授業見学会の実施と充実(中) ⑫中高の各模試の結果と分析の中高全職員による共有(中高) ※中高合同教科会議でも議題とする ⑬中3次における高1次のコース決定と、高1次のコース別指導の運動(中高) ⑭最難関・難関大志望者指導の実施による意欲の喚起(中高)</p> | PL:進路指導主任 SL:学年主任 ※⑬はSLに高校主幹教諭を含む |
| | | (5)特別活動における中高連携の強化 | <p>⑮「豊饗祭・文化の部」での中高生徒の交流促進(中高) ⑯中3の高校部活動への早期入部の実施(中高) ⑰中高生徒会執行部の交流促進(中高)</p> | PL:特別活動主任 SL:学年主任 |
| | | (6)学校経営における中高連携の強化 | <p>⑱県外における先進的取組の情報収集と研究(中高) ※併設型に加え中等教育学校も含めた視察 ⑲中高合同行事に関する中高合同協議会の開催(中高) ※中高の関係分掌主任と管理職(校長を含む)での協議会を開催し、そこでの結論を運営委員会での原案とする ⑳6年間を通じた体系的英語指導体制の構築(中高) ※私立中高一貫校や市内普通科高校との差別化戦略の一環 ㉑中高合同教科会議の定例化と相互の授業観察の実施(中高)</p> | PL:管理職 SL:主幹教諭・指導教諭 ※㉑はSLに英語科主任を含む |
| 3 ワークライフバランスの推進 | <p>E 休暇取得の推進 ・月2回の定時退勤日の達成割合が60%以上(中高) ・年度内の年休取得日数15日以上の達成割合70%以上(中高) ・時間外勤務月80時間未満80%以上(中高)</p> <p>F 職員アンケートにおける回答率 ・「ワークライフバランスを保つために業務改善・休暇取得に意識して取り組んでいる」(中高共に100%)</p> | (7)職員の勤務時間・休暇取得の管理 | <p>㉒「定時退勤日」を月2回以上(中高) ㉓記念日等による計画年休の設定を学期に2回以上(中高)</p> | PL:管理職 SL:衛生管理者 |
| | | (8)職員の業務改善と休日の業務の削減 | <p>㉔大学等の人材を活用した「花園中学」の継続(中)と、「土曜講座」の終了(高) ㉕高1・2の外部模試の平日実施(高) ㉖部活動の地域移行の推進(中) ㉗業務におけるICTの活用とそれに関する研修(中高)</p> | PL:管理職 SL:主幹教諭・指導教諭 ※㉖はSLに中学特別活動主任を含む |